

MINIMINI MINES

大学博物館等協議会2015年度大会・第10回博物科学会 In金沢大学

日時：平成27年6月25日（木）

場所：金沢大学（石川県）



シンポジウムの様子
(安達教授の講演)



金沢大学資料館

平成27年6月25日（木）「ヴァーチャルミュージアムの現状と目指すもの」というテーマで、大学博物館等協議会2015年度大会が金沢大学を会場に開催されました。鉱業博物館からは齋藤茜職員が参加しました。

シンポジウムでは、秋田大学の安達毅国際資源学部教授が講師として招かれ「秋田大学における資源教育の一例として」と題し、博物館講堂に設置しているバーチャル鉱山実習システムの開発と活用について講演を行いました。その後開催されたパネルディスカッションでは、本大会テーマについて、各大学博物館からの発表を受け、今後の展開等について活発な意見が飛び交いました。特にバーチャルであるならば、本物ではないからこそ手を加えることが出来る利点があり、教育ツールとして本物に対する学習へ繋がるという意見は、今後のコンテンツを制作する上で大変参考になりました。

翌日6月26日（金）は第10回博物科学会が開催され、参加大学博物館の様々な事例について発表がありました。中でもスペース不足により展示していない所蔵物について、連携展・出張展等で他の施設と連携を行いながら活用している事例や、企画展で取り上げた文化や技術が、後日連続ドラマ製作スタッフから協力要請により監修を行った事例、また館内リニューアルに関わる様々な問題点や苦心、立地の特徴やその対策など、鉱業博物館でも今後役に参考にした発表が多数ありました。

また金沢大学資料館の案内見学では、企画展「金大資料館コレクション展2015：資料館再発見」が開催されており、埋もれていた所蔵資料を有効に活用している企画は、鉱業博物館でも企画展や特別展として開催したいと思うものでした。

糸魚川フォッサマグナミュージアムを訪問

平成26年6月24日（水）齋藤茜鉱業博物館職員が、新潟県糸魚川市にある糸魚川フォッサマグナミュージアムを訪問し、館長補佐 宮島宏氏の案内による見学と展示説明を受けました。

2015年3月にリニューアルオープンした鉱物・地質学系の博物館で、展示内容は、地元のヒスイ・化石・地質・地元の鉱山・外国産化石などでした。中でもヒスイについては、小石サイズのものから巨

大なものの展示、さらにヒスイの歴史や成因についての展示もありました。

石はどこで生まれるのかを示す図では、実物の火成岩・変成岩・堆積岩が貼られてあり、直接、岩には触ることもできました。また、下からライトで光をあて、鉱物の違いを観察できる展示もあり、体験型の展示が豊富な博物館でした。



小さなヒスイの展示



巨大なヒスイの展示



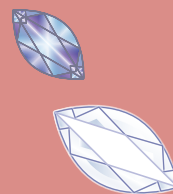
光を当てて鉱物の違いを観察



岩が貼り付けて展示されています

高松伏石鉱物館から寄贈の鉱物・鉱石の展示作業始まる

鉱業博物館では各所から貴重な鉱物・鉱石のコレクションを寄贈いただいております。特に「高松伏石鉱物館」（香川県高松市）の館長、故 上松保氏のご遺族からは、展示していた貴重な鉱物・鉱石コレクションの寄贈をいただき、今後の公開を目指しております。現在、展示に向けての準備が始まり、千田技術専門員の指導のもと博物館業務体験実習生2人が作業を行いました。公開の日時は現在のところ未定ですが、決まりましたらミニミニマイنزでお知らせいたします。



平成27年度 第1回企画展

「山本作兵衛と筑豊の炭鉱

ーユネスコ世界記憶遺産が語る近代炭鉱の光と影ー」が終了しました

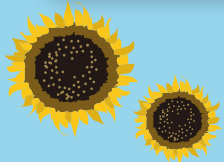
平成27年度第1回企画展「山本作兵衛と筑豊の炭鉱ーユネスコ世界記憶遺産が語る近代炭鉱の光と影」が平成27年6月28日（日）をもって終了しました。

山本作兵衛氏の描いた炭鉱記録画は、ユネスコ世界記憶遺産に登録されており、その原画や複製を間近で鑑賞できるとあって、多くの見学者が訪れました。新聞・テレビにも取り上げられたこともあり、4月30日（木）から6月28日（日）までの期間中、博物館来館者数は、のべ1708人とたくさんの方々にご来館いただきました。



来館者アンケートより

- ・山本作兵衛さんの絵にふれて、生きていくことのすばらしさを感じました。（65歳・女性）
- ・世界遺産の価値を知らされました。歴史を知る上でもっと多くの人に観てほしい。（65歳・女性）
- ・炭鉱で働いていた人たちは、想像を超える大変さだったろうなと感じました。（47歳・女性）
- ・複製でいいので、もっと作品が観たい。（64歳・男性）



エリアなかいち にぎわい交流館AU 出張展示リニューアル!!

鉱業博物館では、所蔵している貴重な、また珍しい鉱物や鉱石を一人でも多くの方にご覧いただきたいと思い、出張展示をしております。場所はエリアなかいち「にぎわい交流館AU」で、喫茶店「ふらっと」の前にあります。

7月17日（金）、約7か月ぶりに展示内容をリニューアルしました。今回展示したのは、「雷管石」という一見、石とは思えないような不思議な形をしている珍しい岩石です。なかいちの近郊にお越しの際など、ぜひお立ち寄りください。

雷管石とは

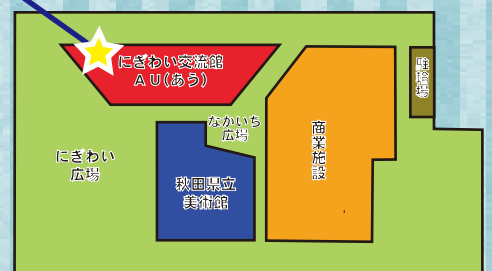
落雷により一瞬のうちに地表の砂などが溶けてできた岩石です。電流の流れた砂の部分がチューブ状になり、それを取り囲む周囲の砂が急速に冷えてガラス化しています。

形状は、木の根のようなものや、枝状に分かれているものなど様々です。

生成には6億ボルト以上の電圧が必要とされ、主にアメリカ西海岸やアフリカのサハラ砂漠で発見されています。



ここです!



お知らせ：8月末発行を予定していたミニミニマインズ9月号は、都合により休止いたします。